在日米軍横田基地でのパラシュート降下訓練に抗議する

2012 年 1 月 13 日　日本平和委員会
東京平和委員会
羽村平和委員会

2012 年 1 月 10 日から 12 日、在日米軍横田基地で米陸軍によるパラシュート降下訓練が強行された。規模は、10 日は約 100 人と在日米空軍横田基地広報が認めており、12 日は約 60 人が羽村平和委員会の監視で確認されている。

パラシュート降下訓練は、「一歩間違えば周辺住民を巻き込む重大な事故を引き起こしかねない極めて危険性の高いもの」（沖縄県議会決議2011年6月29日）と沖縄県で再三抗議されている訓練である。横田基地は、東京都内５市１町にまたがり、周囲は住宅等が密集しており、こうした危険な訓練を認めるわけにはいかない。しかも11、12日は無通告での訓練であり、日本の主権と住民の人権を無視する許しがたい訓練である。

同時に重大なのは、今回の降下訓練について防衛省は、「運用即応演習　仮想戦闘環境における基地の機能テスト」「テロ攻撃や航空機又は地上戦闘力等による基地への攻撃を想定し、実践的な即応体制を執ることを目的とする訓練」などと説明しているが、これは横田基地が攻撃され周辺住民が戦渦に巻き込まれる危険を証明する以外の何ものでもない。

さらに重大なのは、米軍が太平洋地域に所属する陸軍部隊による訓練だと認めていることである。太平洋地域の陸軍のパラシュート部隊は、アラスカ州の第 25 歩兵師団第４空挺旅団戦闘団にあり、同部隊は今月 24 日から伊丹駐屯地で強行されようとしている日米共同指揮所演習「ヤマサクラ 61」では島嶼部奪還部隊に位置づけられている。「ヤマサクラ 61」は、アメリカの中国敵視戦略に基づくものであり、同時に日本本土が戦場となることを公然と認める演習でもある。

加えて横田基地では、今月 23 日から航空自衛隊を中心とした日米共同演習「キーン・エッジ 2012」が強行されようとしている。この演習は「ヤマサクラ 61」と一体のものである。今年３月末には航空自衛隊の航空総隊司令部の横田基地への移駐が強行されようとしており、日米の軍事一体化がさらにすすめられようとしている。

いま東アジアでは ASEAN を中心に紛争の平和的解決の流れが広がっている。また日本の貿易に占める対中国貿易の割合は､アメリカを上回る約４分の１となっている。

いま日本に必要なのは、アメリカの世界戦略に唯々諾々と追随して、危険な軍事的対決の道に踏み込むのではなく、世界とアジアの平和の流れをいっそう発展させ、東アジアでの国際紛争の平和的解決の枠組みを確立することである。これこそ、国連憲章と日本国憲法に沿い、日本の平和を保障する道である。

横田基地での危険な訓練に強く抗議するとともに、横田基地撤去を強く訴えるものである。